

2004年度の鉄軌道事業設備投資計画は総額407億円

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：上條清文）では、鉄軌道部門で2004年度に総額407億円の設備投資を行い、輸送力増強をはじめ輸送サービスの一層の向上に努めてまいります。さらに鉄道ネットワークの拡充を目指し、東横線と東京地下鉄13号線との相互直通運転化工事を引き続き進めてまいります。2004年度設備投資計画の概要は次のとおりです。

輸送力増強とネットワーク整備に258億円

田園都市線の輸送力増強策として進めている「大井町線大井町～二子玉川間改良工事および田園都市線二子玉川～溝の口間複々線化工事」（参考図1）においては、1996年に着手した溝の口駅改良工事（下り線）に加え、二子玉川～溝の口間線増工事、旗の台駅改良工事など本年も引き続き工事を進めてまいります。この複々線化工事が完成すると、田園都市線方面から都心に向かうルートとして、渋谷経由のほかに、二子玉川から大井町線を介して大岡山・目黒経由、および大井町経由が加わり、田園都市線の混雑緩和が図られることとなります。

東横線の輸送力増強策である「目蒲線（現目黒線）目黒～多摩川園（現多摩川）間改良工事および東横線多摩川園～日吉間複々線化工事」（参考図2）におきましては、2000年9月26日より目黒駅を経由して目黒線と営団（現東京地下鉄）南北線および都営三田線と、2001年3月28日からは南北線経由の埼玉高速鉄道線と相互直通運転を開始し、新しい鉄道ネットワークが誕生しております。1995年11月に着手した目黒～洗足間立体交差工事、東横線複々線化区間における武蔵小杉～日吉間線増工事を、引き続き進めてまいります。

なお、両複々線化工事とも「特定都市鉄道整備事業計画」の認定を受け、「特定都市鉄道整備積立金制度」を活用して進めてまいりましたが、「目蒲線改良・東横線複々線化工事」につきましては1997年度に積み立てを終了し、1998年度より取り崩しを始めています。

また当社では東横線の首都圏交通ネットワークにおける機能強化を図るため、東横線と東京地下鉄13号線との2012年度の相互直通運転実施を目指し、渋谷～代官山間の地下化工事を引き続き進めてまいります。この相互直通運転が実施されますと、池袋～新宿

～渋谷～横浜が一本の路線でつながることになり、副都心と横浜地区を結ぶ、首都圏における広域的な鉄道ネットワークの一翼を担う動脈路線としての機能を持つこととなります。

安全対策や車両新造に 1 2 7 億円

保安面では、目黒線目黒～洗足間立体交差工事も進めており、この工事が完成しますと 1 8 か所の踏切道が廃止され、鉄道の安全性向上と交通渋滞の解消が図られます。

車両新造については昨年度に引き続き、新形式車両「5 0 0 0 系」の導入を進めてまいります。この車両は「人と環境に優しい車両」を設計コンセプトに開発され、エネルギー消費効率の向上による環境対策や、軽量化による騒音、振動の軽減に加え、バリアフリー化、車内に設置した液晶ディスプレイによる情報提供などを実現しています。今後の当社線の標準車両として位置づけており、既に東横線や田園都市線などに導入しておりますが、今年度は新たに 4 8 両を導入いたします。

駅施設の改良等サービス改善に 2 2 億円

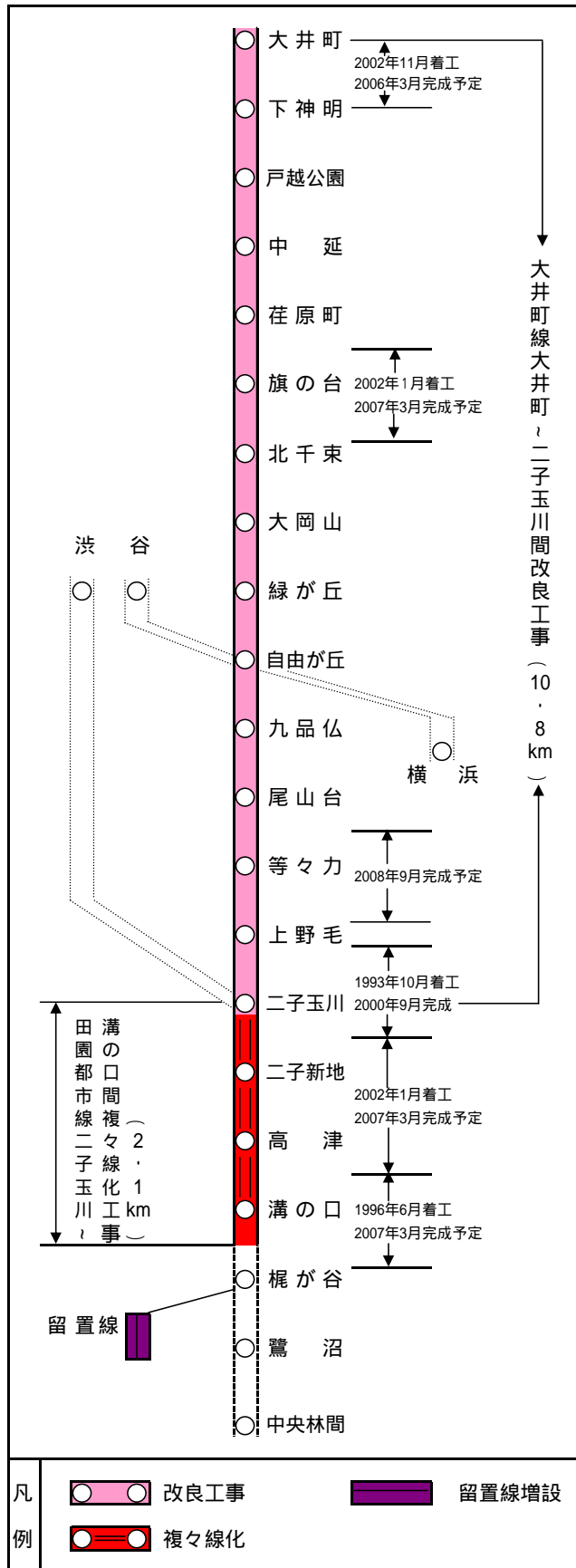
バリアフリー対策として、池尻大橋、二子玉川の 2 駅にエレベーター 3 基、九品仏、大倉山、荏原町の 3 駅に多機能トイレを新設、渋谷（東横線）、反町、桜新町、鷺沼の 4 駅のトイレを多機能トイレに改修いたします。

また、田園都市線、大井町線、池上線、東急多摩川線の全ての券売機にバリアフリーに対応した多機能券売機を導入し、目や耳の不自由なお客さまにも使いやすいように、従来よりも大きくはっきりとした配色の数字ボタンや音声による情報案内をとり入れるとともに、大井町線を中心とした 1 7 駅に運行情報表示器、メッセージ表示器を新設し、ダイヤが乱れた場合にはお客さまに必要な情報を迅速に提供できるようにするなどサービス改善工事を実施いたします。

以 上

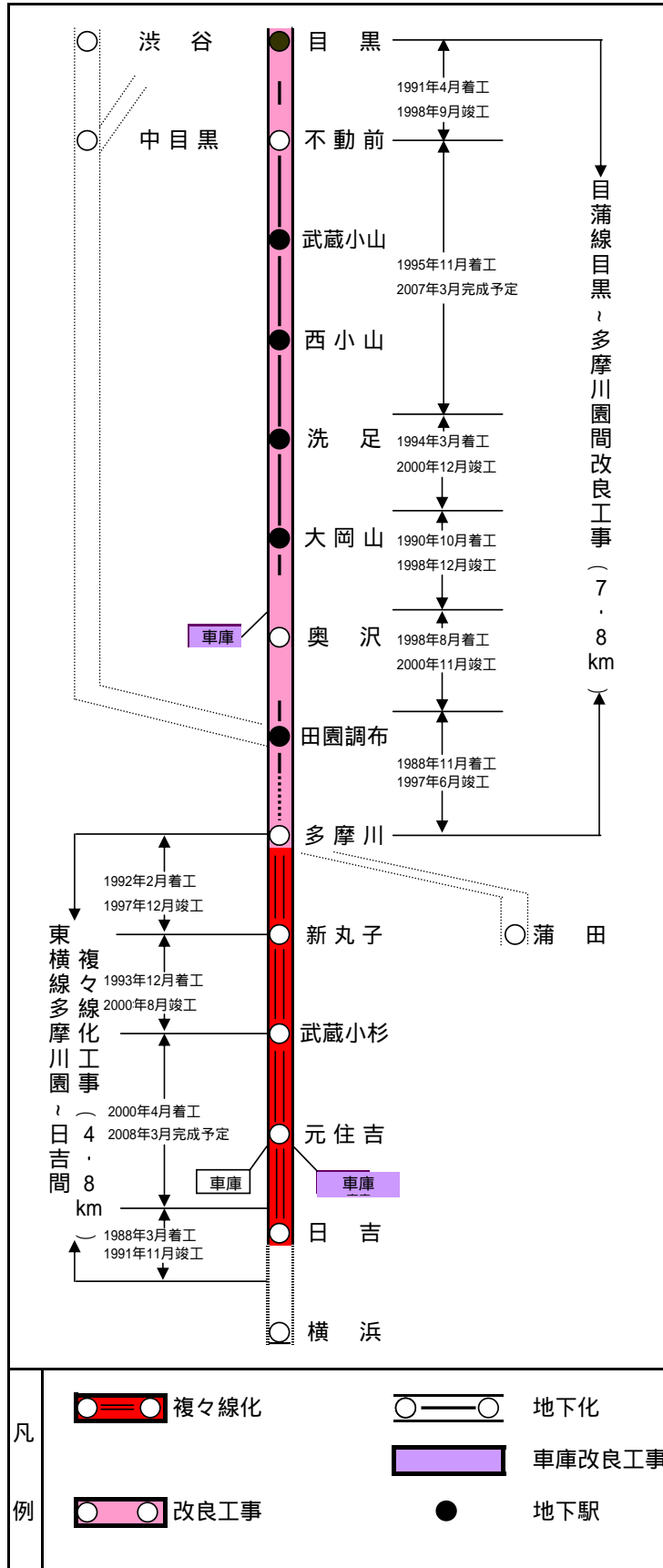
(参考図1)

大井町線大井町～二子玉川間改良工事および
田園都市線二子玉川～溝の口間複々線化工事
(工事計画図)



(参考図2)

目蒲線(現:目黒線)目黒~多摩川園(現:多摩川)間改良工事
 および東横線多摩川園(現:多摩川)~日吉間複々線化工事
 (工事計画図)



凡

例

●=● 複々線化

○=○ 地下化

■ 車庫改良工事

○=○ 改良工事

● 地下駅